

## 第2 【事業の状況】

### 1 【生産、受注及び販売の状況】

#### (1) 生産実績

当第2四半期連結会計期間における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(千円)	前年同四半期比(%)
塗料関連事業	1,877,208	—
自動車製品関連事業	3,480,813	—
合計	5,358,021	—

- (注) 1 金額は、販売価格によっております。  
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。  
3 その他の事業では生産活動は行っておりません。

#### (2) 受注実績

当グループは受注による生産は僅かであり、主として見込生産によっておりますので、受注ならびに受注残高について特に記載すべき事項はありません。

#### (3) 販売実績

当第2四半期連結会計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(千円)	前年同四半期比(%)
塗料関連事業	2,990,578	—
自動車製品関連事業	4,904,508	—
その他	2,706	—
合計	7,897,793	—

- (注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。  
2 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	前第2四半期連結会計期間		当第2四半期連結会計期間	
	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)
㈱中外	1,142,644	16.8	1,230,444	15.6
本田技研工業㈱	737,807	10.8	841,696	10.7

- 3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### 2 【事業等のリスク】

当第2四半期連結会計期間において、財政状態、経営成績およびキャッシュ・フローの状況の異常な変動等又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

### 3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結はありません。

#### 4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において、当社グループ（当社および連結会社）が判断したものであります。

##### (1) 業績の状況

当第2四半期連結会計期間におけるわが国経済は、中国をはじめ新興国への輸出など国内生産の増加により景気は緩やかな持ち直しが見られました。一方、第2四半期後半では新車買い替え補助金の終了など景気対策効果の一巡や米国・欧州の景気回復遅れを背景とした急激な円高ドル安進行等、景気に対する不透明感が高まっております。

このような厳しい事業環境のもと、当社グループでは、顧客ニーズに合致した環境対応型の製品や価格競争力のある新製品の開発に取り組むとともに、積極的な受注活動に努めてまいりました。また、全社をあげての原価低減活動と固定費削減など、収益確保に取り組んでまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結会計期間の売上高は、自動車の需要回復による関連製品の販売増加などにより78億9千7百万円（前年同期比15.8%増）となりました。

損益につきましては、売上増と徹底したコスト削減効果により営業利益は2億6千8百万円（前年同期比183.2%増）となりました。経常利益は持分法投資利益等の増加により4億2千3百万円（前年同期比86.6%増）、四半期純利益は3億5千4百万円（前年同期比147.9%増）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

##### ① 塗料関連事業

当セグメントの品種別売上高につきましては、合成樹脂塗料は、建築内外装材の若干の落込みもあり前年同期比1.7%減少しました。防水材は、当社の主力であるウレタン防水の拡販活動により前年同期比5.1%増加しました。床材・舗装材は、公共施設物件や民間設備投資の需要回復により前年同期比15.3%増加しました。工事関連では、マンション等の改修工事受注増加により前年同期比26.3%増加しました。

この結果、当セグメントの売上高は29億9千万円、セグメント利益は8千6百万円となりました。

##### ② 自動車製品関連事業

当セグメントの業績につきましては、国内では自動車の新車買い替え補助金等、需要の喚起や中国をはじめ新興国での需要拡大ならびに北米市場の緩やかな回復に支えられ、国内自動車生産台数は前年同期比26.5%と増加しました。

品種別売上高につきましては、国内乗用車生産台数の増加に伴う受注増加により、防錆塗料は前年同期比14.5%、制振材は前年同期比16.5%、吸・遮音材は前年同期比23.9%とそれぞれ増加しました。

この結果、当セグメントの売上高は49億4百万円、セグメント利益は1億8千2百万円となりました。

##### (2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ4億7千5百万円増加し、361億8千万円となりました。主な増減要因は、現金及び預金の増加12億8千7百万円、有形固定資産の減少4億1千万円によるものです。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ1億5千7百万円減少し、184億1百万円となりました。主な増減要因は、未払法人税等の増加1億5千7百万円、借入金の減少3億6千3百万円によるものです。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ6億3千2百万円増加し、177億7千8百万円となりました。主な増減要因は、利益剰余金の増加9億5千9百万円、その他有価証券評価差額金などの評価・換算差額等の減少3億5千2百万円によるものです。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ12億9千3百万円増加し、34億3千万円となりました。

営業活動による資金は、9億5千4百万円の収入（前年同期比7千5百万円増加）となりました。この主な要因は、減価償却費4億5千8百万円、売上債権の減少額2億9百万円によるものです。

投資活動による資金は、3億6千3百万円の支出（前年同期比8千2百万円増加）となりました。この主な要因は、有形固定資産の取得による支出1億9千8百万円、関係会社株式等の取得による支出1億6千8百万円によるものです。

財務活動による資金は、2千8百万円の支出（前年同期比5億2千9百万円減少）となりました。この主な要因は、短期借入金の減少額6億2千9百万円、長期借入れによる収入8億円などによるものです。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結会計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結会計期間の研究開発費の総額は2億4千5百万円であります。